

# 日本記者クラブ会報

## 望まれるホールの優先使用

企画委員長 藤村 邦苗

早いもので、もう年の瀬、そこでこの一年の企画委員会の報告です。

ずいぶんたくさんの方をお招きしました。昼食会二五回、記者会見三九回、このうち国賓一人を含む外国からのお客さまが四人。総理大臣は、オランダのルベルスさんから中曾根さん、ガンジーさんまで八人のほりました。研究会、勉強会も二二回開かれました。

近ごろ、とりわけ今年になって、目立ってきた傾向は、これらの会合の出席者が急増したことでしょう。四月十五日のアイアコッカ・クライスラー会長の三百二十五人は特別でしたが、百人台は珍しくなくなりました。地味な、と思われる研究会で

も、七、八十人に及ぶことが少なくありません。出席者に個人会員が増えたのは、時代の反映でしょうが、クラブのかねてからの懸案であった、ワーキングプレスの諸君の参加が増えたのは喜ばしいことであります。忙しい中を集まって、知恵をしぼって下さった企画委員の皆さんと、下準備をしてくれた事務局の若い人たちに拍手をおくって下さい。

ところで、いい事があると、問題もいろいろと出てくるものです。そのひとつ——スペースの関係で出席希望者をお断りする事態が、しばしば出てきたことです。十一月二十八日の中曾根首相の時も、九階のレストランをつぶしてもなお、五十

第190号  
1985年  
12月10日発行  
東京都千代田区内幸町二ノ二ノ一  
プレスセンタービル9F 110  
◎ 社団法人 日本記者クラブ  
電話 五〇三—二七二二(代)

人以上の方々に、ご遠慮願わなければなりません。十階の大ホールは早くから、ある企業の子約済みだったからです。VIPになればなるほど、間際になって日程が決まるので、いつも後手番にまわっています。ガンジーさん(十一月三十日)も同じで、同行関係その他で六十人ですから、クラブ員の枠は限定されざるを得ませんでした。

クラブが優先的に使えるようになったらいい、という声もありますが、それもそう簡単にはいかず、頭を痛めています。ここでは、いい知恵と、「関係者の一層の協力を」と、お願いするにとどめておきます。

そのふたつ——過日、某閣僚をお招きしたとき、応接室が先約の会合に「使用中」のため、ロビーの入りこみぐで打ち合わせやサインをしていたら、というハメになりました。礼を失した思いもありますし、SPが横に立ったりしてクラブの象

囲気もこわばった感じ。八階に新しく得た部屋に調度をととのえて会合室にあて、応接室は「クラブ招待者」や来訪VIP用にあけておくというのはいかがでしょうか。

その三つ——「ひとつ」「ふたつ」で部屋や調度が整っても、内容が追いつかなくては、どうしようもありません。それは、相変わらずの「無質問」状態です。奥ゆかしいのかシャイなのか、「では質問を……」となっても、ほとんど手が上がらず、上がったと思うと外人記者。招待者と一緒に来た記者クラブ詰めの手前は、先輩たちに気がねしてか、それとも、こんなオープンな場所できくなんてバカな……と思っただけか、ひたすらメモをとるばかり。

個人会員が質問に立って、ベテランの貫禄を見せてくれるまでは、司会者は冷や汗ものものです。質問が出やすいペーパー方式には異論もありますが、会員の直接質問と併用する機会も、増やさざるを得ないかもしれません。

最後に、どうぞよいお年を。

## むつとむつとの語

## 六〇年安保とU2型機



多田 実

「極東の範囲」について、政府の答弁が七回も変わったのは今でも語り草だが、そのうち五回ぐらいは、私が毎日書いた解説とこの本からきたと今でもいわれる。

そんな中にも院外の安保騒動はますます激化していった。

しかし、国際的にも当時は大変な危機を示していた。当時の基調はデタント。ところが、そんな中で五月五日、ソ連政府が「ソ連領空に侵入した米偵察機U2型機を五月一日に撃墜し、パイロット、パワーズを逮捕した」と発表した。このため五月十七日に予定されていた米英仏ソ首脳会談を、ソ連がこのスパイ機を理由にボイコット、ついに首脳会談は流産してしまった。

「土井さん、遅いですね」

「いや政局ですよ、それより多田さん、明日遅刻しない方がいいですよ」

二人は並んで歩いた。

「朝十時半、臨時の大臣会見があります」

一九六〇年といえれば昭和三十五年、いうまでもなく「六〇年安保」の年だった。

本務は、安保交渉と新条約の取材速報競争、そして解説の鋭さを競う、政治報道であった。

ソ連が米偵察機撃墜

わが国では岸内閣の新安保条約提案に対して、院内では野党の猛追及が続ぎ、院外では数万の一般市民・ノンポリ学生まで巻きこんだデモと集会の興奮が、永田町と霞ヶ関を連日包囲していた。

こんな時、私の処女出版の『新安保条約の全貌』が三十五年一月に出た。論戦の舞台は衆院安保特別委員会。ところが何と、与野党

の委員席に、その私の本がぞろりと並んでいる、さすがにそれは嬉しかった。今の横路北海道知事の父君の横路節雄委員（社会党）のごときは、私の本をページごと

（霞クラブキャップ）だった。それこそ前線記者時代を通じて、興奮と緊張と冷静な分析を要求される数か月、というよりもそれ以前を含めての二年間であった。

にめぐりながら質問をして、政府を追及する。

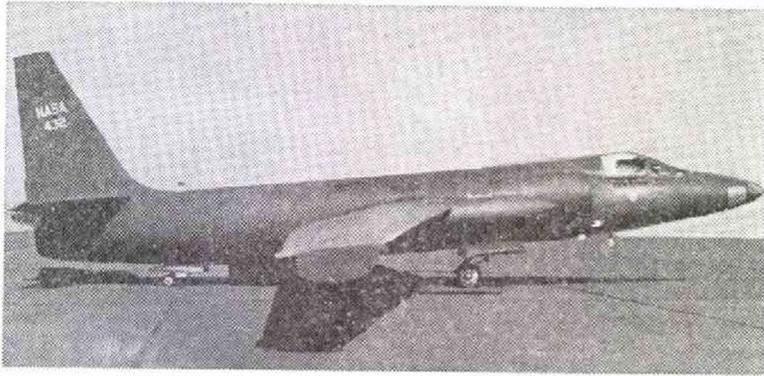
これを受けた日本の安保論争も大変、社会党の飛鳥田一雄委員（後の委員長）は「その黒いジェ

明日、臨時大臣会見

そんなある日、私は一人で外務省にねばっていた。何となく省内が緊張していたからでもあった。と何時だろうか、遅い時間に土井外相秘書官（故人）が退出する。

「朝十時半、臨時の大臣会見があります」

二人は並んで歩いた。



撃墜されたU2型機と同型機 (写真提供=読売新聞社資料部)

土井さんは、私の方を振りかえりもせず、車で走り去った。それから後、私は新聞記者なら誰でもする大車輪の取材活動にはいった。外務省にはもう何一つさし迫った懸案もないのに、大臣の臨時会見とは異様だったからである。

外務省の要人たちは一様に口が

固かった。しかし、どうやら米ソがらみの大問題だということだけは分かった。電光のように「U2型機かも」と浮かんだが、もう締め切りが迫っていた。

「頼む、書かないでくれ」

最後に詰めをしたのは山田次官(後国務大臣)と北原欧亜局長(現西武顧問)だった。

「絶対に記事にしないでくれ、総裁選に出馬する藤山大臣へのはなむけだ。な、頼む、我慢してくれ」

それが二人の条件だった。委細を話した二人は「頼む、明日世界中をアッといわせてくれ、大臣の最後の晴れ舞台だ」と真剣だった。私は深夜政治部デスクに深々と頭を下げて短い記事を書いた。

「藤山外相は十一日午前十時半外務省で記者会見を行い、最近の日米間の懸案について重要な発表を行う予定である。外相発表の内容は厳秘にされているが、最近、わが国およびアメリカとソ連との

間で国際的論争をまき起こした問題に関連し、在日米軍の基地使用の改善に関連したものである」翌朝の読売新聞朝刊最終版一面右側に、この種の正体不明の記事としては異例の三段のちよっと目立つ記事が載った。

その朝、外務省には早朝から外人記者の問い合わせや来訪が殺到し、霞クラブ員も続々集まった。

「読売さん、大特ダネらしいが一体中味は何ですか。すべて知っているんでしょ」

各社の友人は一樣に「抜かれたかった」一種の安心感をこめて、私に「中味をいえと迫ってきた。私は苦笑するほかなかった。一瞬、取材相手との信義を裏切っても特ダネ報道をすべきだったのか——という思いさえ脳裏をかすめた。

### U2すでに日本を退去

藤山外相が内外記者団に発した内容は、骨子次のような苦しいものだった。

「U2型機は気象観測のため日本にも来ていたが、任務を終わったので、日本側の非公式要請に基づいて、七月はじめすでに日本を退去した」

それから間もなく「U2型機日本にも、すでに退去」のニュースが世界中を駆けめぐった。もちろん国内の夕刊の一面トップを大々的に飾った。

私はその頃「私は取材は下手だからまた特ダネを逃がした。しかしこれでいいんじゃないか。まあこれが人間のすることさ」と仲間と謝っていた。

藤山外相はこのあと自民党総裁選に立候補したが、ついに念願を果たすことはできなかった。

ただみのる氏略歴 大正十二年千葉県出身。昭和二十四年読売新聞入社。政治部長、論説委員、政治部長、編集局長、新聞監査委員長などを経て、五十五年退社。同年、中央大学法学部講師となり、政治評論活動にはいる。「新安保条約の全貌」「アメリカの海外基地政策」「アジアと日本の安全保障」「選挙制度」「海軍学徒兵硫黄島に死す」「日米安保条約」「安保条約を読む」などの著書がある。

# 米ソサミット

## ワーキングプレス

代表取材のテレビ・カメラマンが写した映像がモニター・スクリーンに写し出された。ナンシー・レーガン夫人が訪問先で記帳するところ。カメラは遠慮なく彼女の手にズームアップしていく。画面いっぱい写し出される彼女の手の甲には老人にあるしみが――「テレビとはかくも残酷なものか」と思った。少し前、同じモニター・スクリーンは、しみひとつないライサ・ゴルバチョフ夫人の手のアップを写し出していたからだ。

テレビが報道の中心になった今、首脳会談に限らず、多くのイベントが往々にして「何がニュースの本質であるか」ということよりも、むしろ「そのニュースがどのように人の目につるか」ということで判断される。「首脳会談でのレーガン大統領の目的は？」という質問に、ただひとつ「ピクチャー(絵)」と答えたアメリカのネットワークのアンカーマンの言葉のように、首脳会談で大統領あるいは大統領夫人が、アメリカをそして世界の人々の目に

## テレビ報道はソ連に有利に

平野次郎

どのようにつるかが、ある意味で首脳会談の実質的成果と同様、あるいはそれ以上に重要と、アメリカ側は考えていた。

首脳会談でアメリカは事前から、メディア戦争での敗北を覚悟していたのではないだろうか。ホワイトハウスがクレムリンの「宣伝攻勢」を幾度となく非難し、レーガン大統領がソビエトのテレビに出演することを幾度となく要

求したこと、クレムリンがこうしたアメリカの言い分を全く無視し、メディアを通じてのゴルバチョフ書記長の売り込みを事前につように繰り返したことは、おそらくこうした背景があったことだろう。

病みあがりだから当然のこととはいえ、ジュネーブで見たレーガン大統領には、かつてのような馬をのり回し、マキを割るとい

ネルギツシユな西部の男のイメージは、そのカケラすらなかった。かわってジュネーブで人々が見たのは、精神的にも肉体的にも力強く充実した、若い指導者としてのゴルバチョフ書記長のイメージであった。

レーガン大統領が去りゆく指導者であり、ゴルバチョフ書記長が台頭する指導者であると即断することは危険である。国際政治はまたそれほど単純なものではない。しかし、ジュネーブでのサミットで、クレムリンが打ち出したかったのは「レーガンの時代は終わった。これから代は終わった。これから

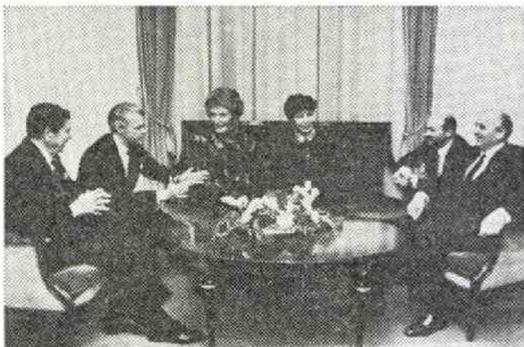
は、ゴルバチョフの時代だ」というものであり、ホワイトハウスが何とかして守りたかったのは、ゴルバチョフに負けないレーガンのイメージだったのである。しかし冒頭に紹介したナンシー・レーガンとライサ・ゴルバチョフの手のアップのエピソードがそうであったように、テレビの報道は、クレムリンに有利に働いた。

世界のマスコミが今回のサミット

トを取材するために、ジュネーブに送り込んだジャーナリストは三千三百人近く、そのほぼ半数がテレビ・ジャーナリストであった。百六十人を送り込んだNBC、百二十人を送り込んだABC、百人を送り込んだCBSのアメリカ三大ネットワークは、例によって現地ジュネーブに臨時の放送局を作って、取材・制作・送出にあたった。いつものことではあるが、手ぎわの良い対応であった。

サミットが終わり、首脳、代表団、取材陣が去った今、残る命題はひとつ。果たして歴史はジュネーブを駆け抜けたのだったろうか。

(ひらの じろウ NHKジュネーブ支局長)



サミット初日、ゴルバチョフ書記長主催の夕食会を前に談笑する両首脳夫妻 (11月19日 ソ連代表部 写真提供=WWP)

# ネバドデルルス噴火

## ワーキングプレス

「これはひどい！」—二昼夜、泥水につかっただままの少女を、ぼろぜんと見守るだけの兵士たちを見て、怒りが込みあげてきた。ネバドデルルス火山(コロンビア)噴火最大の被災地アルメロで約四十分、全く通じない英語でどなるように取材、離陸寸前の軍用ヘリに強引に乗り込み、ボゴタに戻り、現地入り第一報を送った。チェッカーとテレビだけを見ることが多いロスとは異なり、久し振りに戦場に飛び込んだような興奮する取材だった。

われわれがアルメロの救援基地マリキタに着いたのは、十五日午後二時すぎ。前日の夕刊ですでにボゴタ発は打っているので、次のねらいは被災地アルメロに現地入りした第一報だ。ところが、朝早く車で出発する予定が手間取り、急拠飛行機をチャーター、われわれはマリキタ経由で入ることに決めた。われわれというのは、マイアミからボゴタへの機中で知りあったラジオ放送のコロンビア人、フロレス(F)記者とわたし。ところが、飛行機に交

更したことが結果的によかった。第一に時間を短縮できたうえ、マリキタ到着前にアルメロ上空を旋回、被害の概要をつかめたからだ。爆発したネバドデルルス火山は霧に覆われ見えないが、ふもとの台地は幅十キロ、長さ八十キロにわたり土砂が流出、人口二万五千の同町は八割がた泥流の下に埋没している。

同乗していたアルメロ出身のホ

## 泥流にいたサンチェスちゃん

浜崎 勝久

セ・アカスタさん(四〇)は「教会も市庁舎も見えない」と真っ青だ。マリキタでは前日、同じ飛行機でボゴタ入りした邦人記者とぼつたり。すでにアルメロでの取材を終えたという。これには参った。当方は取材どころか、まだ現地入りの足も確保していない。現地までは十八キロ。唯一の足は軍のヘリだが何度かけ合っても「余裕」がないの一点張り。

その時、F記者が石油会社のヘリが「片道だけ」を条件にOKだと知らせてきた。彼自身は行かなくてもよい。「遠来の日本の記者を」と頼んでくれたそうだ。時すでに午後三時。マリキタ空港は日没時間の関係から、午後五時半で閉鎖となる。あと二時間半、それまでにマリキタに戻らないと、夕刊はダメになる。とにかくやってみよう。F記者には「五時半までに帰れなければ先に帰ってくれ。ボゴタで会おう」と言い残し、ヘリに飛び乗った。

現地でもう一つ幸いだつたのは、泥流の中で二昼夜救出を待ち、世界の注目を集めたオマイラ・サンチェスちゃん(二二)が、ヘリが着陸したすぐ目の前の泥流にいたことだ。

「なぜ、石をどけないのだ」「軍や赤十字はこの事を知っているのか」。リーダーらしい兵士に声を荒げて質問した。ところが、英語が全く通じない。まず名前が分からない。兵士の名札を指さし「君はホ

セ・カルロス。彼女は？」という工合。いやはや大変。やっとの思いで最少限度の必要事項をきいたあと、大急ぎで周辺の状況を取材、折から離陸寸前のグアジャバル行きの軍のヘリに飛び乗った。機中には救出されたばかりのイングリ・メイラさん(二六)が担架で運び込まれていたが、上半身裸だ。「夜間、あつという間に洪水に流され、二昼夜、家屋の下敷きになっていた」という。

グアジャバルでは地元記者、赤十字の救援隊員とハイウエーまでダッシュ、家畜運搬トラックを止め、荷台に乗せてもらい、約束のタイムリミット十分前、マリキタ空港に無事帰着、チャーター機の出発に間に合うことができた。

(はまさき かつひさ 読売新聞社ロサンゼルス特派員) 写真 イバゲ市でたき出しをする人達



# 慶子さん報道

## ワーキングプレス

「慶子さん、こつちを向いて」  
 「邪魔だあ、どけーい」。日航機事故で奇跡的に助かった川上慶子さん（二一）島根県簸川郡大社町北荒木）が、群馬県高崎市の国立高崎病院から郷里に近い松江市母衣町の松江赤十字病院へ転院してきた八月二十七日。病院玄関は二〇〇人を超す報道陣の間を怒声が飛び交い、迎えに出た兄の千春君（一四）や祖母キミエさん（七〇）との「感激の対面」どころではなくなつた。

事故以来の報道ぶりから、ある程度の混乱は予想されていた。島根県警記者クラブ（加盟十三社）が事前に病院側と協議。玄関前とロビーに「はみ出し禁止」のロープを張り、「玄関前からロビーには移動しない」と申し合わせた。不必要な混乱を避け、玄関前では寝台自動車を降りた慶子さんを、ロビーでは千春君らとの対面を「整然と」取材するためだった。到着の数時間前から、記者クラブに加盟していない東京の週刊誌記者や芸能レポーターが続々詰めかけたが、加盟

### 「そっとしておいてください」

社に準じ、取り決めに従って取材する了解をとりつけた。しかし、慶子さんが到着した瞬間、様相は一変した。周囲からどつと身を乗り出す記者、カメラマン。わずか数メートル四方の中で慶子さんが千春君ら家族、学友、看護婦らに取り囲まれる形になったため、誰もがアングルを奪い合った。ついにはロープを越え、カメラの放列の目でカメラを構え

る記者も出て、ロビーは騒然となつた。

### 平川 勝 憲

取材攻勢は続いた。翌日、入院中の慶子さんの表情を撮影しようとして、テレビと新聞の数社が病院近くのビル屋上にカメラを据えっ放しにした。病室に潜入を試みて警備員に見つかり、押し戻された記者も出た。高崎以来常にカメラに追われていた慶子さんは、ブラインドを上げられず、付き添いの親

族が病室外をうかがってトイレに行くという状態に、態度をさらに硬化させた。記者会見で様子を話した医師や看護婦との対話までも拒む結果を招いた。

慶子さんのマスクも不信が最も象徴的に現れたのが、九月二十八日。初めて病院から外出を許され、懐かしいわが家へ五十三日ぶりに帰った時だ。再び大挙して押しかけ、自宅前に陣取っていた取材陣の前で慶子さんはく

るりと背を向け、顔をひきつらせて玄関へ向かって歩いた。玄関先で千春君やキミエさんに迎えられるもソツポを向き、記者

者会見では「もうカメラマンには来てほしくない。自由になりたい」と涙声で怒りをあらわにした。

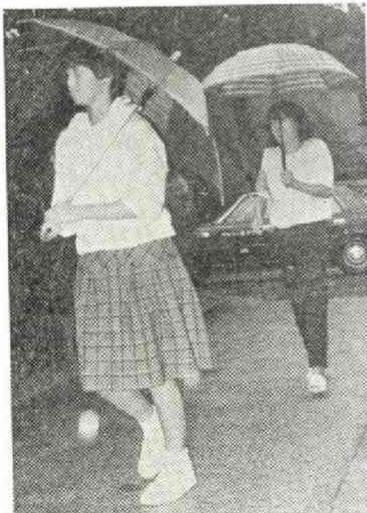
十一月二十二日、慶子さんは八十七日ぶりに退院した。静岡の新聞大会の席上、彼女に対する行きすぎ報道がとりあげられて以来、県警記者クラブは秩序

ある取材方策について何度も話合った。

次善の策として代表取材の方式をとり、見違えるほどに整然と取材したつもりだ。けれども、この日も彼女はほとんど笑顔を見せず、最後には「報道関係の皆さん、どうかこれからは、そっとしておいてください。お願いしませう」と訴えた。

そっとしておいてあげたいと思う。しかし、はかり知れない悲しみから立ち直って行く姿を伝えるのは、私たちの使命でもある。出来るかぎりの配慮をしながら、彼女をフォローしていきたい。

（ひらかわ かつのり 中国新聞社松江支局）



53日ぶりに自宅に一時帰宅した慶子さんの表情は硬かった（大社町 9月28日）

# 5億円強奪事件

ワーキングプレス

史上最高の五億円強奪事件の舞台となった青森県むつ市。人口五万人の小都市は、十一年前、原子力船「むつ」放射線漏れ事故以来の全国的な大事件に大揺れに揺れた。

「五億円強奪」の一報が飛び込んだのは、十月二十六日午後四時すぎ。発表する青森県警は四時間前に捜査本部を設置済み。記者会見は、発生からちょうど丸一日が経過していた。銀行閉店間際の二十分間で、五億円の引き下ろし劇を演じてみせた犯人グループ。その機敏な動きと対照的に、同県警の初動捜査の立ち遅れが声高に指摘された。

しかし、かく言う報道各社の動きも総じて鈍かった。巨額の強奪額に「まさか」の疑念が払い切れず、「事実の確認」の名の下、出足に鋭さを欠いた。被害者を包丁で脅し、ロープで縛り上げて奪ったのは、通帳と印鑑各一個。銀行のオンラインシステムを利用した行為が、はたして「強奪」になるのか。三和銀行、滋賀相銀などオン

ラインでの高額引き出し劇は過去に何度かある。しかし、本州最北端の小都市で起きる事件にしては、額が一桁どころか二桁は違うという予断が、やはり捨て切れないうところがあった。

主犯の篠原誠(五二)は八月中旬、むつ市へ々みせかけ会社々中央水産を設立。さけの加工を手広く行い、と地元から従業員を破格の高給で採用した。製品を仕入れ

## 出足にぶかった報道各社

広瀬

値以下の安値で売り表向きを偽装、裏面で同じむつ市内の三千三百平方メートルの他人所有の土地を見せて、導入預金話を複数の金融ブローカーにもちかけ、着々と奪取する機会を狙い実行に移したものだ。

取材合戦は熾烈を極めた。青森県内で発生した事件で、中央紙を含め連日社会面トップ、時に一面を飾り続けた例は少ない。夜打ち

朝駆けも激烈だったが、これだけ警察幹部の口が固いのも初めて。

「警察庁はじめ他府県警に捜査協力をしていただいている」のがその理由とされた。しかも、県警始まって以来、東京に前線捜査本部を置く異例づくめの広域捜査だ。

断片的な情報しか持たない捜査員。全容を把握しているのは上層部の限られた数人だけで、記者の連日へとへとになりながらの取材攻勢も実を結ぶことは少なかった。

昇

地元を置く記者として悔いも多い。そもそも中央水産がむつ市に進出、札幌らを切った派手な行動をとったとき、危険を

一様に感じとっていた。現地むつ署も篠原から事情を聴いている。が、実在する人物の本名を詐称され、現実に被害が発生していない時点で、手を出せず静観していたのが実情だった。県警幹部も指名手配した十月二十六日、「被疑者三人はいずれも正体はつきりせず、本籍も青森県ではない。氏名も自称で、どんな人間か、そ

こから特定する必要がある」と語っていた。

結果論だが、篠原は実名で指名手配をうけていた。重大な関心をみせた警察が、目の前で大物政治家、財界人の名を口にする希代の詐欺師をなぜ見抜けなかったのか。指名手配とは何か、について考えさせられる事件でもあった。

全国版から姿を消してきた五億円事件。だが、地元では、新たに三億円の手形詐欺事件も発覚、流れた手形の一部の行き先に、五億円事件と関連のある暴力団ルートの「地下銀行」も見え隠れしている。今日を精一杯生き抜くことに必死なむつ市民にとって、「紙屋」「沈め屋」のアングラマネーやその複雑な地下組織などは、無縁であり続けたものだった。

(ひろせ のぼる 東奥日報社むつ支局)



現場検証のためむつ署を出る主犯の篠原誠(左) (11月29日)

クラブゲスト

村山 達雄 元蔵相



昭和十二年大蔵省入省。名古屋、大阪国税局長、主税局長を経て、三十八年か

ら衆院議員。党経理局長、蔵相、党税制調査会長等を歴任する。十月八日、藤尾政調会長の私的諮問機関・村山調査会会長として、大型間接税導入と所得税、法人税の同時同額実施を骨子とする、税制改革案の中間報告を提出した。

中間報告の抜粋B4判25ページを資料に、約一時間で手際よくブリーフィング。この中で、中曽根首相が「減税先行」の印象を与える発言をしているのに対して、「予算制度上、減税を先行させると赤字国債を出さねばならず、利子負担が増える。逆に増税先行なら収収を歳出分に回せということになる」として、あくまで「増減税同時期」を強調した。このクギがきいたのか、十一月五日の参院予算委員会で、首相も増減税同時期を表明した。【二月一日(金)研究会「税制改革かくあるべし」(X) 司会 広瀬一郎企画委員 出席 六二人】

澄田 智 日本銀行総裁



「貴賓室」でのサイン帳への署名のとき、就任早々の前回は「信為萬事本」と書いたが、今回は年月日と氏名のみ。前回のスピーチは書いたものを次から次へと読み上げ、質問の時間もあまり残さなかったが、今回は昼食もそこそこに国際通貨新情勢の背景と課題をまことに要領よく説明したあと、「さあどうぞ」と質問に応じた。G5以後の円高・ドル安時代の立役者の面目躍如。

「片足をアクセルに乗せたまま、エンジンブレーキをかけているのか」との問いには、「エンジンブレーキなどかけてない。アクセルにはつねに足を置きながら、ブレーキが必要になれば、いつでもかける」と。「投機勢力はカラダを張っているが」われわれは相当な覚悟で臨んでいる。「市場はわれわれの努力を正當に評価してくれた。自己採点するならば、各国の協調ぶりをふくめ、点は相当に高い。次は政策面での協調だ」「通貨制度の改革は次のサミットでも話題となる永遠

の課題だが、現在の変動相場制に変わるものができると思わない」(累積債務問題のペーカード提案は)調停つかれのいま、南北が議論しあう目標ができた。十分に意味がある」【二月二日(水) 貴賓会 司会 広瀬一郎企画委員 出席 一四四人】

ウラジーミル・M・カメンツェフ ソ連漁業相

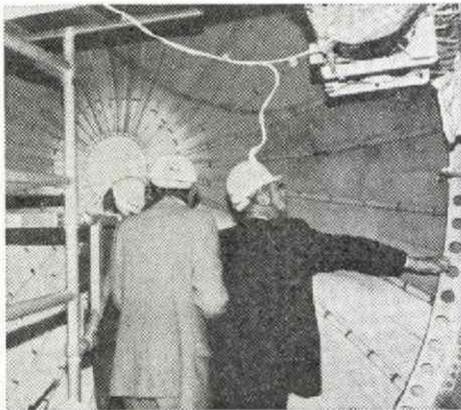


資客なのに、国賓なみの厳戒ぶり。外務省と警備当局の物差しも違うのか。パトカーの先導でノンストップの車列がブルースセンター玄関ポーチに乗り上げる。

降りてきたのはクルーカットの宇宙飛行士みたいな大臣だ。しかも金ボタンのブレザー姿なのだ。歩きながらきいたら、「海の男の服だと思ってくれ」と言うのには驚いた。

だがサケ・マスの沖獲りはもう二年ぐらい認めるというほか、ニュースらしいものはほとんど出さず。漁業以外の外交や政治問題になると、手にした厚い資料集をめくりながら「何年何月何日にゴルバチョフ書記長も言ったように……」と繰り返かえす。来年一月の日ソ外相会談のことにも「私は漁業相」と逃げてしまう。外相は夫人を同伴するだろうか、との司会者の助け舟にも「私も連れて来ようと思ったが、孫が産まれてダメになった。自分のワイフのことさえわからないの

見学会



十一月六日(水)、日本航空羽田整備工場の見学会を、午前、午後の二回に分けて行った。鶴本整備工場次長から約一時間、「整備方式について」のブリーフィングをうけた後、重整備中(オーバーホールに近い点検)のジャンボSRを見学した。狭い足場に気を配りながら、説明員の誘導で裸同然のジャンボを視察、問題のアサガオのお化けみたいな圧力隔壁を間近に観察した。【出席 午前 一六人 午後 三二人】

クラブゲスト

に、外相の奥さんのことにも言及  
できませぬよ」と、腰を浮かす。  
【二月一日(月) 記者会見 司会 有賀  
忍企画委員 通訳 鈴木明 出席 六二人】

宮沢喜一 自民党総務会長



会場はまさに超満員。五年ぶりの  
登板とあってか、日本語のできる  
外人記者や大使館員の姿も目立つ。

「今週は(中曽根さんやガンジーさ  
んのような)ヘビー・ウェイトぞろ  
いのなか、私のようなライト・ウエ  
イトが」とか「不遜な態度とお叱り  
もあつたでしょうが、つい来そびれ  
まして」とお得意のカーブを投げた  
あと、国際通貨・内需振興・予算編  
成についての見解を、メモなしで理  
路整然と約一時間。ニュースという  
よりは、G5以後のわが国通貨当局  
の業績に対する宮沢流の高い評価  
や、むずかしい内需振興と予算編成  
にからみ、大蔵省の「若い連中」と  
これまた宮沢式な影響力行使の対話  
を続けていることを明らかにした。

南ドイツ新聞のヒルシャー支局長をは  
じめ七つの質問が出た。保守本流の本質  
については「政治権力の抑制的行使と自  
由カッタツな政治」と自説を再確認。

「それならリーダーシップとは」ときか  
れて「大平さんはオーケストラのコンダ  
クターと言った。私もそう思う」と答え  
る。ポスト中曽根への立候補問題につい  
ては「来年のサミットはきわめて重要。  
いっしょに戦っている仲間に失礼なこ  
と、ジャマになるようなことはしない。  
国益はいつも考えています」と。【二月  
二七日(水) 記者会見 司会 藤村邦苗企画委員長  
出席一五五人】

中曽根康弘 内閣総理大臣

プレスセンター・ホールが使えず、宴  
会場とレストランをつぶす行事が続くな  
か、圧巻・超過密の昼食会となった。はみ  
だした会員はロビーで、外人記者の多く  
は六階フォーリン・プレスセンターで同  
時通訳つきの有線テレビで取材。

応接室。前日の宮沢さんの揮ごう「大



樹深根」をチラリと見たあと、ただ太い  
字で「中曽根康弘」と書き、年月日を添  
えただけ。「分かりきつた、常識的なこ  
としかしゃべりませぬよ」と言いなが  
ら、例の大マタで会場へ。

昼食はスーブのあと、メインディッシ  
ュの肉をこわり、付け野菜のニンジン  
とインゲンだけ。デザートはオレンジに  
「うまい、うまい」を連発しながら「七  
三キロ。あと三キロ減らさねば」と、ま  
わりを笑わせた。

日ソ打開の好機、内需振興、三選問題  
など、冒頭発言も質疑応答も、数多くの  
紙面や画面でご覧のとおり、なかなか  
上出来であった。傑作だったのは、外務  
省にも定訳なく、英字紙にも「ゼネラ  
ル・レビュウ」としか報じられていない  
「戦後政治の総決算」を外国にどう説明  
しているのかときかれ、「オーバーホー  
ル(分解修理)」の答えに一同爆笑。  
【二月二八日(木) 昼食会 司会 新井明理事長  
出席 二三八人】

ラジーブ・ガンジー インド首相

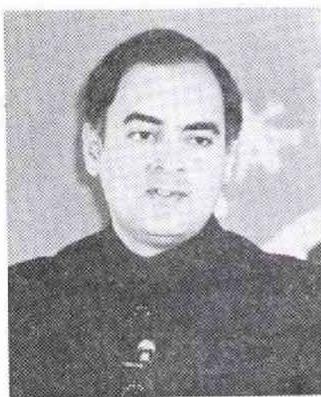
またまた九階での昼食会となったが、  
警備当局の強い要請により、メインテー  
ブルを窓側でなく壁側にセットしたため  
収容力が減り、キャンセル待ちや、ロビ  
ーでの有線テレビでの取材者が出た。

代表団と同行記者団のなかにはベジタ  
リアンが九名もいることがわかり、アラ

スカが頭を痛め、別に煮野菜とサラダ、  
デザートにはチーズ・クラッカーを供し  
た。全員、コーヒードなくティー。

祖父ネール、母ガンジーの後を継いだ  
四十一才の若武者。姿を見たくて集まっ  
た会員を前に、冒頭発言は通訳いれてた  
つた八分間。さあどうぞ、なんでもおきき  
をと言ふ。美男子ぶりは父祖伝来のもの  
らしいが、気合いが目立った祖父や母と  
違つて、声も物腰もやさしい。いっばい。  
非同盟路線、米ソ首脳会談、アフガン、  
カンボジア、ソ連の全アジア安保構想、  
パキスタンとの和解、中東和平、南アジ  
ア協力会議など、きわめて多方面の問題  
に、いずれも逃げず、虚勢も張らず、誠  
実に、そしておだやかに内容濃い所信を  
開陳して、好感を与えた。

帰りに「フレンドリーなプレスに感  
謝」とつぶやきつつ京都へ。【二月三〇  
日(土) 昼食会 司会 新井明理事長 通訳 村松  
増美 出席 一九六人】



# スタジオ訪問

テレビ西日本

《土曜ジャーナル》

## 対話形式で ズバリ提言

博多の町を一望できる高台・高宮一丁目にテレビ西日本はある。昭和四十九年、それまで送信所だったところに増築して新社屋にした。

テレビ西日本は、今年四月から、毎週土曜日の深夜〇時三十五分から十五分間、論説番組「土曜ジャーナル」を放送している。先月の山形放送に続いて、全国に二つしかない論説番組のひとつを紹介する。

番組では稲坂硬一解説委員長が、客員解説委員との対話の形で論点を整理し、最後に提言をまとめる。テーマは地域に密着したものから国際的な話題まで、幅広い。

水曜日に開かれる解説委員会で、四五本のテーマを検討、一本が選ばれ、その問題に対する社の意見「提言」がまとめられる。同時に、出演を依頼する客員

解説委員を決定する。

委員会決定に従い、樋口教高プロデューサーが客員解説委員の出演交渉に当たり、両者の打ち合わせを経て原稿がつけられる。「社の責任で、社の意見を述べてもらうわけですから、論旨をキチンと説明し、納得してもらい必要がある。今まで反対されたことはありませんが、その場合は別の方に依頼することになります」。原稿づくりと並行して、インタビューなどの取材も始まる。

録画どりは金曜日の午後。三時三十分から原則だが、スタジオの使用状況で夜になることもある。訪問した日は予定通り、三時三十分が始まった。スタジオ内には四台のカメラが置かれ、フロアディレクター、カメラマンなどが、照明、セツト、カメラ位置などのチェックを行う。やがて、稲坂さんとこの日の客員解説委員、友田浩西日本新聞論説委員が、別室での最終打ち合わせを終えてセツトにつく。一度、リハーサルを行い、すぐに本番。インタビュー、イラスト、コンピュータ画面を使った資料などをはさみながら四時、終了。ビデオテープのチェックを待ち、フロアディレクターの「OKです。お疲れさまでした」の声で全員ホッとひと息。

「二、三年前から、社内で論説放送をや

ろう、という声が少しずつ広がってき、機が熟してこの四月のスタートになりました」。この番組の推進役を務めた尾山達巳報道制作本部長は、スタート時をふり返る。「テレビはパートのようなもの。娯楽の売場も必要だし、論説の売場も必要です。他局が論説放送に踏み切らないことについては、「ウチもそうでしたが、この種の番組を始める時は身構えてしまうんですね。それに、時間枠やスタッフの制約もあります。けれども、一度『やろう』という気持ちで社内が固まり、始めてしまえば道は開けるものだと思います」。

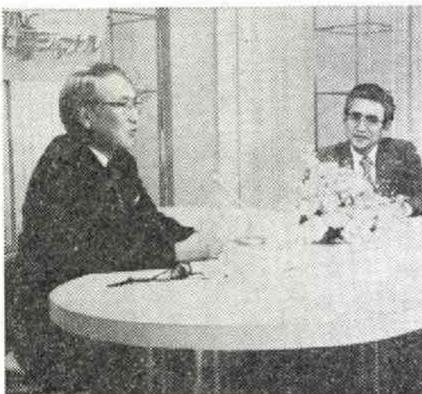
樋口さんが「スタートする時に決めたのは、ズバリと提言や主張をする、完全論説番組にしよう、ということでした」と後を続ける。「まず、客員解説委員を十人選びました（新聞社から四人、大学教授四人、それに弁護士、経済人）。いわば社の顔になるわけですから、人選には苦労しました」。候補者二十人から十人を選びつけるのに二か月かかった。

第一回放送（四月六日）のテーマは「いじめ」。ナイターの延長で、三十分遅れのスタートになった。視聴率は一％以下、というスタッフの予想に反し、一・五％だった。その後、少しずつ上がり、今では平均約三％になっている。絶対値の視聴率に対する、相対的な占拠率（全視聴

率に対する特定の番組の視聴の割合）で、三〇％を超すこともある。これはその時テレビを見ている人の三分の一に当たる。

「テーマはタイムリーなものが中心ですが、番組に継続性を持たすために三つの大きなテーマを決めました。旧産炭地・筑豊地域の浮揚問題、北九州市の再活性化、福岡の国際化がそれだ。「折あるごとに取りあげていくつもりです。ただ、それぞれ難しい問題で『こうあるべきだ』という提言を出すのは容易ではありません」。たとえば、貿易摩擦を考えれば、高い国内炭より安い外国炭を、ということになるが、地域特性を考えればそう簡単には割り切れないということだろう。

（河野 聡）



リハーサル中の稲坂解説委員長（左）と友田客員解説委員

# 紹介 合会

5日▽番組企画会議 (テレビ東京 鈴木久雄会員) ▽入社試験 (協会 田村進会員) 6日▽番組編成会議 (文化放矢口武郎会員) 8日 インタビュール 中島恵利華 プログルファー (時事 岡村康雄会員) ▽アメリカ飼料穀物協会記者会見 (米国大使館 エミール山内会員) 9日▽第1回教育奨励賞表彰式 (時事 山谷宏会員) ▽ワシントン会—元ワシントン特派員、商社員の家族会 (読売 渡辺恒雄会員) 11日▽「岸政権1241日」出版記念会 (サンケイ 吉村克己会員) ▽座談会 立石真建設省建築課長、瀬田公和厚生省企画課長、猪股亀三郎日本ビルディング協会連合会常任理事他 (日本工業 倉持雅雄会員) 12日▽「サイゴン抑留所」出版記念会 (高田秀二会員) 13日▽東都会 (宮村文雄会員) ▽田村祐造氏を偲ぶ会 (サンケイ 吉村克己会員) ▽新年企画対談「歩く」 平沢彌一郎放送大学教授、女優太地喜和子 (河北 沼田潔会員) ▽愛媛クラブ例会 (愛媛 堀定省会員) 14日▽全国独立UHF放送協議会 (サントテレビ 相馬英樹会員) 15日▽読売国際漫画大賞審査会 (読売 後藤昌彦会員) 18日▽「澤田美喜伝」出版記念会 (俵萌子会員) ▽ナルイエスEC委員会副委員長記者会見 (岸上慎太郎会員) 19日▽論説委員懇談会 (NHK 多湖實之会員) ▽テレビ大阪「一九九」講師 竹内正紀日経経済部次長 (松岡秀雄会員) 20日▽加夜会—元バンクーバー特派員の家族会 (宮本敏治会員) 21日▽地方局懇談会 (民放連 泉長人会員) ▽ニエールビジネス研究会 (サンケイ 中川朗会員) 22日▽小野秀雄先生夫妻を偲ぶ会 (春原昭彦会員) 25日▽「王道の孤獨」出版記念会 (永野信利会員) ▽積雪地帯対策研究会 (石川英夫会員) ▽文化放送ブレイク創立10周年謝恩パーティー (文化放 斎内祥三会員) 26日▽政治担当論説懇談会 パーティー (中日 萩原道彦会員) ▽宮本倫好君を励ます会 (サンケイ 岡芳輝会員) 27日▽日本外交協会研究会 三宅和助外務省中近東アフリカ局長 (池浦泰宏会員) 28日▽吉田太郎一氏出版記念会 (共同 松尾好治会員) ▽文化部OB会 (共同 阿部豊会員) 30日▽クレベール会—元バリ特派員の家族会 (小林淳宏会員) (会員がクラブ施設を利用して行った主な会合です。十一月の利用回数は一〇四回でした)

## 第129回企画委員会 (11・6 8階会議室)

十月二十二日の金子一平経企庁長官屋敷会の際、応接室が使用できず、ラウンジで打ち合わせや署名を行わざるを得なかった点について、司会をした山岸委員からまずいのではないかと問題提起があり、施設運営委員会、総務委員会でも、この点を検討してもらうことにした。

出席 藤村委員長。浅井、山岸、友田、広瀬、井上、有賀、石丸、高野、藤川、白井、武藤、鈴木、河野、木村、中川、村野、ヒルシヤールの各委員。

## 第99回会員資格委員会 (11・12 小会議室)

十二月一日付の会員入退会を審議し、理事会へ答申した。

出席 渡辺委員長。中川、加藤、林、玉井、青木、埜邑の各委員。

## 第66回会報委員会 (11・18 小会議室)

十二月号、一月号の編集方針と会報アンケートの設問を決定した。

出席 深川委員長。佐藤、斎藤、安延の各委員。

## 第22回施設運営委員会 (11・26 小会議室)

五年ぶりに来春実施する、レストラン、バーのサービス等についてのアンケート内容を決定した。

出席 原委員長。佐川、河崎、和田、山崎、黒木の各委員。

## 会員アンケートの実施について

第66回会報委員会と第22回施設運営委員会、会員アンケートを明年一月に実施することが決定した。クラブ施設、サービスに関するアンケートは五年ぶり、会報アンケートは三年ぶりになる。

両委員会で、それぞれの質問も決まったので、明春、会報一月号とともに、B5判二ページのアンケートを全会員に届け、同封の返信用封筒で返却してもらうことになる。

前回のアンケート実施から、だいぶ時間もち、この間に会員も相当数増え、クラブ行事も活発化しているので、会報の編集についても、レストラン、バーのサービスなどにも、いろいろご注文があるのではないだろうか。

両委員会とも、会員の皆さんから率直なご意見をお寄せいただき、その結果を各委員会の今後の活動やクラブ運営の参考にしていきたいと考えている。

いまのところ一月末日締め切りにして、回答結果をとりまとめ、三月号ないし四月号の会報で報告させていただく予定。

クラブ運営に会員の皆さんの声を反映するため、ぜひアンケートにご協力を。

日本記者クラブ会報 (昭和60年) 索引

一七九号

- 1 春は枝頭に在ってすでに十分 (新井 明)
- 2 『新春随想』
- 3 昭和前期 記者修業のころ (渡辺孟次)
- 4 前田夫人よりクラブ賞基金に百万円
- 5 『スタジオ訪問』
- 6 朝日放送・たいむ6
- 7 『ワーキングプレス』
- 8 西独のフリック事件 (朝日 堀井淳夫)
- 9 尾を引く二階堂シヨク (時事 江口伸幸)
- 10 韓国のプレス・ビル完成 (春原昭彦)
- 11 第三回大軒杯争奪囲碁大会・石崎五段が優勝
- 12 『クラブゲスト』
- 13 佐々木良作民社党委員長 森本良男桃山学院大学教授
- 14 ニード香港総督 カブート アルゼンチン外相 プリ
- 15 マコフ ソ連科学アカデミー東洋学研究所所長 茅野
- 16 亮すかいらく社長 タラータ カナダ外相 竹入義
- 17 勝公明党委員長 宮本顯治共産党中央委員会議長
- 18 『写真回廊』
- 19 カールビンソン横須賀入り (共同 上妻聖二)
- 20 『一八〇号』
- 21 竹下、安倍、加藤でスタート
- 22 『とっておきの話』
- 23 20年前のアフリカでの取材 (安延久夫)
- 24 新年互礼会 第12回予想アンケートの結果
- 25 『ワーキングプレス』
- 26 米ソ外相会談 (共同 坂井定雄)
- 27 ラジブ・ウエーブ (斎藤吉史)
- 28 焼酎王国 (南日本新 柳田英夫)

『スタジオ訪問』

- 1 TBSラジオ・朝のファンファーレ
- 2 『クラブゲスト』
- 3 ラクタン タイ副首相 竹下登蔵相 鈴木淑夫日本銀行金融研究所所長 パンゲマン西独経済相 加藤紘一防衛庁長官 小島正興丸紅専務取締役 安倍晋太郎外相 宮崎勇大和証券経済研究所理事長 明石康国連事務次長 西村功住友銀行常務取締役
- 4 『写真回廊』
- 5 大マタ開き (サンケイ 三好英輔)
- 6 『福引』 県品提供社

一八一号

- 1 会員の質問方式で論議
- 2 『とっておきの話』
- 3 人のなまけの枝に咲く (渡辺誠毅)
- 4 『ワーキングプレス』
- 5 創政会 (読売 神田俊甫)
- 6 新風習法 (毎日 中村静雄)
- 7 『クラブゲスト』
- 8 澄田智日本銀行総裁 松永信雄駐米大使 金国幸二インテック社長 ニューウェル米国務次官補 宋之光
- 9 駐日中国大使 ナバビ イラン重工業相
- 10 レストランメニエーの改定決定 (第15回施設委)
- 11 『スタジオ訪問』
- 12 NHK・ニュースワイド
- 13 『写真回廊』
- 14 国際プロフィギュアスケート (AFP 黒川順次)
- 15 一年ぶりの手直しに着手 渡辺元理事長を名誉会

一八二号

- 1 九年ぶりの手直しに着手 渡辺元理事長を名誉会

員に

- 1 『クラブゲスト』
- 2 稲山嘉寛経団連会長 シヤラ シリア外相 ゼスバウ
- 3 米パンフィックマウンテンズネットワーク社長 ユベ
- 4 ロス前ロ五輪組織委員長 大河原良雄前駐米大使
- 5 つくば博覧学会
- 6 昭和六十年年度予算 (第25回臨時総会)
- 7 昭和五十九年度事業報告
- 8 『とっておきの話』
- 9 パーであったムッソリーニの愛人 (佐々木渥一)
- 10 『ワーキングプレス』
- 11 ゴルバチョフ新書記長 (NHK 小林和男)
- 12 田中番記者 (共同 後藤謙次)
- 13 つくば博85 (フジテレビ 舟本雅彰)
- 14 『スタジオ訪問』
- 15 TBS・ニュースコープ
- 16 レストラン・グランドメニエー
- 17 『写真回廊』
- 18 安倍外相と竹下蔵相 (毎日 小久保正一)
- 19 昭和五十九年度会員異動
- 20 『一八三号』
- 21 残念ながら、受賞者なし―六十年年度日本記者クラブ賞
- 22 八階にスベース拡張
- 23 『とっておきの話』
- 24 クーデター直後のビエンチャンへ (土肥良造)
- 25 『ワーキングプレス』
- 26 経済摩擦 (クリストファー・チベロ)
- 27 日本電信電話株式会社 (日経 池田俊作)
- 28 プラズマ実験成功 (朝日 内山幸男)
- 29 江夏の挑戦 (中日 西山和夫)
- 30 『クラブゲスト』
- 31 アジズ イラク副首相兼外相 藤岡和賀夫電通PRR局
- 32 長 グジエンコ ソ日協会会長 アブランモフ駐日ソ
- 33 連大使 金丸信自民党幹事長 アイアコツカ クライ

スラー社会長 ムボウ ヌネスコ事務局長 ルベルス

- 1 オランダ首相 野口悠紀雄一橋大学教授 テビット英
- 2 貿易産業相 名東孝二日本大学教授 高原靖三菱商事
- 3 常務取締役 彭真中国全人代常務委員長 山口光秀
- 4 大蔵省事務次官
- 5 『スタジオ訪問』
- 6 テレビ朝日・ANNニュースリーダー
- 7 値段のないメニエーについて
- 8 『写真回廊』
- 9 新入社員のビールパーティー (東京 高瀬 昌彦)
- 10 大評判 ローカローメニエー
- 11 『一八四号』
- 12 新井明理事長を再選
- 13 昭和五十九年度収支計算書 財産目録 第七期役員
- 14 (第25回通常総会)
- 15 『とっておきの話』
- 16 韓国軍将校が秘かにくれた特ダネ写真 (茂岡光正)
- 17 『ワーキングプレス』
- 18 田中番 (サンケイ 中司 宏)
- 19 新装のNPC (朝日 村上吉男)
- 20 『スタジオ訪問』
- 21 ニッポン放送・お早ようノ中年探偵団
- 22 『クラブゲスト』
- 23 吉永小百合さん シューコピッチ ユーゴスラビア副
- 24 首相 ロセス元ニラタイムズ社主 菊地昌典東京大
- 25 学教授 真藤恒日本電信電話株式会社社長 陳舜臣氏
- 26 メクサンドー仏郵政担当相 リベール国連・開発総括
- 27 事務局長 オザール トルコ首相 メイノECD事
- 28 務総長 フォーゲル西独社会民主党副党首 堀島雄社
- 29 会党副委員長
- 30 質問の際の名乗り方について
- 31 『写真回廊』

カンボジア難民(朝日 福永友保)

一八五号

深谷会報委員長、交代へ 八辨会議室オーブン  
『とっておきの話』

一年がかりで射とめたバトラー英蔵相会見  
(董澤嘉雄)

『クラブゲスト』

加藤六月自民党税制調査会会長 ソン・サン民主カ  
ボジア連合政府首相 エルシヤド バンダラデッ  
大統領 デクニアル国連事務総長 ベレゴボワ 仏経済  
・財政・予算相 加藤紘一防衛庁長官  
東証新市場館見学会

『ワーキングプレス』

永野会長刺殺事件(毎日 古野喜政)  
大鳴門橋開通(徳島 曾我尽治)  
日米防衛首脳協議(毎日 渡部慶二)  
安倍外相東欧訪問(フジテレビ 堤 康一)

『スタジオ訪問』

テレビ東京・ハロービジネスマン  
春たけぬ吉永小百合の後れ毛に(広瀬 一郎)  
クラブタイの製作を決定(第124回企画委)  
試写会『キリングフィールド』(豊庭孝典)  
第七期委員会名簿  
『写真回廊』

『ワーキングプレス』

通産省外車二台を購入(日経 半田裕久)

一八六号

会費改定とクラブ賞で総務委に六人委員会設置  
スカとの契約改定 会報委員長に深川理事  
『とっておきの話』

『ワーキングプレス』

ある男と私(堀田 一郎)  
レーガンが手術(中日 大沢雄三)  
中曽根訪欧(サンケイ 笠原 丹)

『写真回廊』

日航機墜落事故(ロイター 波多野昌和)

『ワーキングプレス』

亀井正夫国鉄再建監理委員長 ウォルデ エチオピア  
外相 井上靖氏 ドール米上院共和党内務務  
『スタジオ訪問』

『写真回廊』

『ワーキングプレス』

『写真回廊』

『写真回廊』

衆院定数違判決(朝日 松本 正)  
残留孤児ビデオ撮り(NHK 那須司朗)

一八七号

庭山慶一郎日本住宅金融社長 ラフサンジャニ イラ  
ソ国会議長 ゲンシヤー西独副首相兼外相 福田幸弘  
元国税庁長官 ソマレ パプアニューギニア首相  
マ  
ンスフィールド駐日米国外使 西村文夫ソ連問題研究  
家 本間正明大阪大学教授 河合良一経団連産業政策  
委員長

『スタジオ訪問』

読売テレビ・きんぎょTODAY  
試写会『インドへの道』(斎藤吉史)  
三つの感想(坂本 宏)

『写真回廊』

徳山村のカメラウーマン(読売 玉木雄介)  
メンバーズテーブルを新設しました

『写真回廊』

『写真回廊』

『写真回廊』

一八七号

会員名簿、講義記録版を作成 六人委員会、活動開始1  
『とっておきの話』

トロッコ算術で割り出した米国の対日軍事援助額  
(堀川敏雄)

『ワーキングプレス』

JAL123便墜落(読売 長谷川淳一)  
奇跡の生存者確認(フジテレビ 山口 真)

三光汽船倒産(日経 守屋林司)

『クラブゲスト』

亀井正夫国鉄再建監理委員長 ウォルデ エチオピア  
外相 井上靖氏 ドール米上院共和党内務務  
『スタジオ訪問』

フジテレビ・プロ野球ニュース

『写真回廊』

『写真回廊』

『写真回廊』

一八八号

五年ぶりの会費改定決定 クラブ賞の基本的見直しも  
名譽会員制で定款改定へ  
『とっておきの話』

江田・西尾極秘会談(島山 武)

『ワーキングプレス』

ジャンボ賭博破裂(毎日 菊池草哉)

南北相互訪問(TBS 広崎靖邦)

つくば博ファイナール(共同 片山正彦)

『スタジオ訪問』

日本記者クラブ賞規約

『スタジオ訪問』

『スタジオ訪問』

『スタジオ訪問』

三浦和義狂騒曲(時事 間山公雅)

一八九号

年あけに二つのアンケート(施設委・会報委)  
ブライムゲストへの記念品に  
『とっておきの話』

辛金丹とチャスラフスカ(梅木 昭)

『ワーキングプレス』

中曽根・ニューヨーク(読売 松本 齊)

ゴルバチョフ書記長(サンケイ 清水邦男)

メキシコ大地震(毎日 中井良則)

『クラブゲスト』

子一平経企庁長官 竹下登蔵相 大場智満大蔵省財務  
官 キューニン 米バーモント州知事  
『スタジオ訪問』

山形放送、けさの主張  
『写真回廊』

『写真回廊』

『写真回廊』

一九〇号

望まれるホールの優先使用(藤村邦苗企画委員長)  
『とっておきの話』

六〇年安保とU2型機  
『ワーキングプレス』

米ソサミット(NHK 平野次郎)

ネバドデルルイス噴火(読売 浜崎勝久)

『ワーキングプレス』

5億日強奪事件(東奥日報 広瀬 昇)

『クラブゲスト』

村山達雄元蔵相 澤田智日本銀行総裁 カメンツェフ  
ソ連漁業相 宮沢喜一自民党総務会長 中曽根康弘首  
相 ガンジー インド首相  
『スタジオ訪問』

テレビ西日本・土曜ジャーナル  
昭和六十年年度会報索引  
『写真回廊』

放置自転車追放(共同 菅谷洋司)

『写真回廊』

『写真回廊』

『写真回廊』

『写真回廊』

### 昭和61年度「日本記者クラブ賞」のご推薦を

◇取材、報道、評論活動などを通じて、ジャーナリストとして顕著な業績をあげ、ジャーナリズムの信用と権威を高めた個人を、一月三十一日までに候補としてご推薦ください。

◇「選考基準」は左記の通りです。

(1)現役ジャーナリスト個人に与えられる賞である。(故人は対象外)

(2)活動が長期にわたるといふ意味での「敬老賞」でもなく、日の当たらない困難なところで活動しているという意味での「風雪賞」でもない。

(3)スタンプ賞ではなく、特に最近数年間の業績が顕著であることを重視する。

(4)その存在および業績がジャーナリズムの活性化と成熟にインパクトを与えるような個人を顕彰する。

◇会員およびプレス会員社に属する方々が候補有資格者です。

◇推薦者は、所定用紙に候補の氏名、略歴等を記入し、四百字づつ原稿用紙五枚以内に推薦理由をまとめ、参考資料(内規参照)を添えて事務局へ提出願います。

◇ご不明の点は、事務局(五〇三)二七二一へお問い合わせください。

### 寄贈書をおわけします

クラブの書棚にある寄贈書の一部を格安でおわけします。会員の方々の著書をはじめ、各団体等から書籍がクラブへ寄贈されていますが、書棚のスペースに限りがあるため、施設運営委員会の決定に従い、その一部(雑誌も含め)を左記のようにおわけします。

日時 十二月十六日、十七日 午前十時から

場所 クラブラウンジ

### ビジョンボックス

十二月七日から来年五月末まで、アラバマ州立大学法学部の客員教授として滞米します。日本の環境政策、日本のジャーナリズムについて講義する他、シンガポールで開かれる第2回世界湖泉環境会議に出席した後、ロンドンでの世界ナショナルトラスト会議に出席して、六月末帰国の予定です。(木原啓吉)

### 奈良新聞社から吉野の富有柿

柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺……。奈良と柿は昔から縁が深い。季節のめぐりに逆らうことなく、ゆっくり豊かにならぬかな独特の味をたくわえた、郷土自慢の富有柿(特級品)が、十一月九日、奈良新聞東京支社からどっさり届けられました。早速、ラウンジで会員の皆さんに、日

### ○囲碁の会

10月例会報告 二十六日(土)、参加十三人、総対局数二十六局。好成績をあげたのは、伊藤六段、堀川五段、滝川三段、西山二段。

11月例会報告 三十日(土)。この日は正午からインドのガンジー首相の昼食会が開催された。物々しい警戒網をかいくぐっての参加者は十人、会見での司会役を務めた新井理事長はじめ八人が二時すぎに加わり総勢十八人で総対局数は三十七局。最終局の出田六段対堀川五段戦が終わったのは午後七時半をまわっていた。暮れの第四回大軒杯をめざして、好調な調整ぶりを示したのは、出田六段、新井四段、村上四

本の秋の味覚をご賞味いただきました。

### 会員の著書(ご惠贈いただきました)

- 自信と過信 G・ヒルシャー 松山幸雄
- 国際対話の時代 中屋健一
- 新アメリカ史 芳賀 綏
- 言論一〇〇年 阿部康典
- ザ・パワー

### 寄贈書

- 日本民間放送年鑑'85 日本民間放送連盟 講談社
- 昭和の戦争 6 同刊行会
- 回想小野秀雄先生夫妻

段、川本三段、浅野三段、石川初段の各氏でした。

年末恒例の大軒杯争奪囲碁大会は、次の要領で開催されます。

◇日時 十二月二十一日(土)午後一時

◇場所 記者クラブ会議室

◇競技方法 参加者全員抽選で三々四組に分け、まず各組優勝者を決め、各組優勝者による勝ち抜き戦で総合優勝者を決める。

◇表彰 総合優勝者(大軒杯)・各組優勝者。もれなく参加賞。

◇会費 二千元

参加希望の方は十二月十四日(土)までに事務局へお申し込みください。初めての方もお気軽にどうぞ。

クラブ訪問者 11・3 S・サンカラン

世界銀行広報局長

展覧会の招待券 平野光男会員(西武百貨店)から「三岸節子展」[Lighting

Gallery'85]、朝日新聞社から「コンピ

ュータ アート展」「ニューヨーク・ピ

デオ・エキスポ'85」「フランス近代絵画

の巨匠たち」の招待券を寄贈していただき

ました。お礼申しあげます。

計報 クラブの元フロアマネジャー・栗

本実さんが、十一月六日(水)胃ガンのため逝去いたしました。ご冥福をお祈りいたします。

# 写真部

写真 菅谷洋司 (共同通信社写真部)



## 放置自転車の気持ち

駅前の放置自転車は、はなはだ評判が悪い。そこで先日、四都県四三〇駅でこのクリーンキャンペーンを行った。そういえば私も逗子駅で、いつもはいつぱいの自転車が一台もなかったのにおどろいた。この歩道はこんなに広がったのかと、気持ちがよかった。

だがその直後、自転車の持ち主たちはどうしているだろうかと思なった。逗子あたりでは自宅から駅まで、歩くと二、三十分かかる人が少なくない。バスは本数が少なく、時間もあてにならない。電車を使う通勤、通学者には、自転車は欠かせぬ必需品だ。寒風吹きすさぶ早朝に、駅まで歩かせるのはいかにも気の毒だ。駐車場があるというが、場所が不便で、すぐ満車になる。歩道に置いてもらうほかはない。決して「放置」ではない。

持ち主だっていいことだとは思っていない。その証拠には、非難する投書はたくさんあるが、その反論は見ることがない。悪いとは思いつつも、どうか見逃してほしいと切ない気持ちでいるのだろう。このキャンペーン、はやりの「弱い者いじめ」を連想させる。必要に迫られ、また放置自転車は出てくるだろう。いつもの繰り返しだ。最初に禁を破った人を「主謀者」と責めるべきか、あるいは「先覚者」と褒めるべきか。

写真は国鉄錦糸町駅前の撤去作戦。

(古谷 綱正)

写真回廊「満二歳」

各社写真部の協力を得て掲載中の「写真回廊」も満二歳になりました。写真記者ご自慢の作品や苦心作に、ベテラン記者が短文を添えて、合わせて一本を狙うペーじです。

今年一月から短文執筆にあたった山本武（朝日OB）、増田れい子（毎日）、古谷綱正（毎日・東京放送OB）三氏の担当期間が、この十二月で終了いたしましたので、電話で感想をうかがってみました。

山本会員「印象に残っているのは禁煙中の安倍外相の竹下蔵相からのもらいタバコの写真。世相を反映したものがよいのでは」。増田会員「絵ときは自由な発想で書けるので楽しいです。名残りおしい気がします」。古谷会員「日航機事故の写真では、日頃思っていたマスコミの自戒について書いてうれしく思っています」。

お三方どうもご苦労さまでした。なお、明年一月号からは、新たに入江徳郎、牛山純一、仲晃の三氏に執筆していただきます。引き続きご愛読を。

新年互礼会は一月二十三日に開催

恒例の新年互礼会員懇親会を、明年一月二十三日（木）午後六時から十階のプレスセンターホールで開催いたします。席上、昭和六十年予想アンケートの結果発表、成績優秀者表彰と昭和六十一年予想アンケートが実施され、全員総当りの「福引」も行われます。会員多数の出席をお待ちいたします。

応接室の窓ガラスが防弾になりました

国、公費や総理、閣僚などのクラブゲストと司会者が会見直前最終打ち合わせをしたり、署名をいただく場所として、応接室は使われています。警戒が厳重な時など、これまではブラインドを下ろした上にカーテンをしなくてはならず、穴倉がみたいと不評でした。そこで見るに見かねた、大家さん、日本プレスセンターが費用を負担し、十一月二十二日から三日がかりで改装工事をし、クラブのためにこの部屋の窓を全部防弾ガラスにしてくれました。

十一月二十七日の宮沢自民党総務会長、二十八日の中曽根首相、三十日のガンジーインド首相も、この明るい部屋で気持ちよさそうにクラブのため記念署名を残し、会見にのぞみました。

詳細な数字は秘ですが、この防弾ガラスは、天皇ご一家が国民の年賀をうける皇居・長和殿ベランダや迎賓館で使用されているものと同じ規格だそうです。

なお、これを機にクラブは、十年目に入って汚れが目立つ壁クロスとジュータン、クリスタルに損傷がひどくなったシャンデリアなど応接室の内装関係も一新しました。

十二月一日現在の会員状況

法人会員	一四六社
基本会員	六三四人
個人会員	一、二五九人
法人・個人賛助会員	七八社 二二九人
特別賛助会員	七三人
名誉会員	一六人
計	二二四社 二、二二一人

年末年始の休業について

クラブルームは十二月二十八日（土）正午で閉室し、新年は一月六日（月）午前十時から平常通り開室いたします。事務局もクラブルーム同様、十二月二十八日午後から一月五日（日）まで休ませていただきます。

なおレストランは十二月二十七日（金）夜の部まで営業し、二十八日から一月五日（日）まで休業となります。計報 植木和生会員（大分放送）が十一月二十九日肺炎のため逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

十二月の行事（6日現在）

- 10日（火）正午～午後2時 安倍晋太郎外相昼食会
- 13日（金）午後2時～3時半 E・M・プリマコフ ソ連世界経済国際関係研究所長記者会見
- 27日（金）正午～午後2時 章曙駐日中国大使昼食会

一月はシェワルナゼ ソ連外相、ドールEC委員長、五月にチャールズ英皇太子・ダイアナ妃の訪日が予定されており、明春も忙しくなりそうです。会員の皆さまよいお年をお迎えください。

会報委員長 深川 誠  
 委員 佐藤嘉男 井出新六 斎藤吉史 安延久夫  
 連絡 長谷川 河野（事務局）五〇三―二七二一